

Contents

INTRODUCTION

企業ビジョン	1
事業概要	2
財務・非財務ハイライト	4

第1章 JVCケンウッドの価値創造

CEO メッセージ	6
JVCケンウッドの強み	10
価値創造プロセス	12

第2章 中長期的な企業価値向上のための戦略

中期経営計画「VISION2023」	
● 中期経営計画「VISION2023」の位置付け	15
● 外部環境認識と基本戦略	16
● 中期戦略骨子	18
● CFO メッセージ	20
● 事業戦略	22
● ものづくり改革	30
● 技術開発戦略	31
● 人事施策・風土改革・働き方改革	32

第3章 持続的成長を支える基盤

サステナビリティ戦略	34
環境(E)	38
社会(S)	42
ガバナンス(G)	
● 社外取締役、監査役メッセージ	44
● コーポレート・ガバナンス	46
● 取締役・監査役および執行役員	50
● コンプライアンス	52
● リスクマネジメント	53

第4章 その他データ

沿革	54
国内・海外ネットワーク	56
財務・非財務情報	58
会社情報／株式関連情報	60

企業ビジョン

感動と安心を世界の人々へ

Creating excitement and peace of mind
For the people of the world



サステナビリティに関わる主な外部評価

- 外部の評価指標を取り入れ、ESG 強化によって持続的な企業価値向上を目指します。
- FTSE Blossom Japan: ESG 指数[FTSE Blossom Japan Index] 構成銘柄に選定※1
 - FTSE Blossom Japan Sector Relative Index: ESG 指数[FTSE Blossom Japan Sector Relative Index] 構成銘柄にも選定※2
 - 第3回日経「SDGs 経営」調査 星3.5
 - 第5回日経「スマートワーク経営」調査 星3
 - 健康経営優良法人、ホワイト500: 「健康経営優良法人(大規模法人部門)」に5年連続で認定、「ホワイト500」は4回目の選定
 - えるぼし: 女性活躍推進法に基づく「えるぼし」認定の最高位を取得
 - PRIDE 指標: LGBTなどの性的マイノリティに関する取り組みの評価指標「PRIDE 指標」の「ゴールド」を4年連続で受賞
 - 大和IR 優良賞: 大和IR「インターネット IR 表彰」3年連続優良賞を受賞



表紙デザインについて

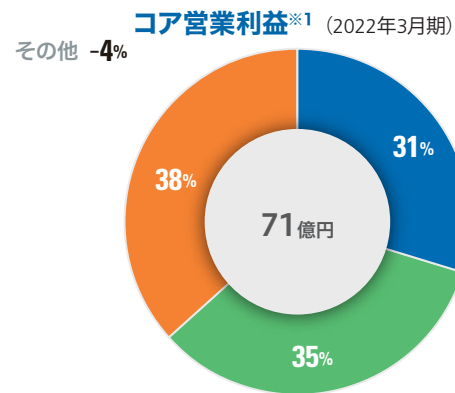
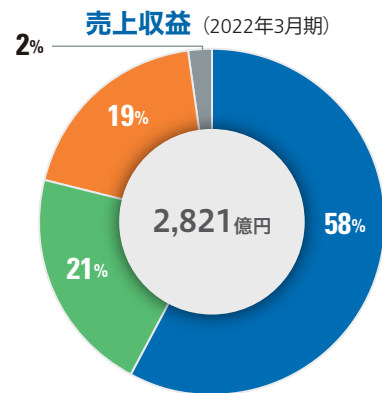
2021年度に策定した中期経営計画「VISION2023」のもと、多様な価値観やリソースを生かして社会課題を解決すること、持続可能な社会を考えながら新たな価値創造の風をおこす意思を込めたデザインとしました。

風車の羽は、SDGsカラーであると同時に当社グループの多様な価値や多様な人材を表現し、風車を回すことは変化の風(未来)を捉えて社員一丸となって成長する企業風土を表現しています。

※1: FTSE Russell (FTSE International Limited と Frank Russell Company の登録商標) はここに JVCケンウッドが第三者調査の結果、FTSE Blossom Japan Index 組み入れの要件を満たし、本インデックスの構成銘柄となったことを証します。FTSE Blossom Japan Index はグローバルインデックスプロバイダーである FTSE Russell が作成し、環境、社会、ガバナンス(ESG)について優れた対応を行っている日本企業のパフォーマンスを測定するために設計されたものです。FTSE Blossom Japan Index はサステナブル投資のファンドや他の金融商品の作成・評価に広く利用されます。

※2: FTSE Russell (FTSE International Limited と Frank Russell Company の登録商標) はここに JVCケンウッドが第三者調査の結果、FTSE Blossom Japan Sector Relative Index 組み入れの要件を満たし、本インデックスの構成銘柄となったことを証します。FTSE Blossom Japan Sector Relative Index はサステナブル投資のファンドや他の金融商品の作成・評価に広く利用されます。

事業概要



- モビリティ & テレマティクスサービス分野
- パブリックサービス分野
- メディアサービス分野
- その他

※1：営業利益から、その他の収益、その他の費用、為替差損益など、主に一時的に発生する要因を控除したもの。



コーポレートの傘下に複数のプロダクトブランドを有する「マルチブランド戦略」を推進します。お客さまから長く親しまれている3つのプロダクトブランド「KENWOOD」「JVC」「Victor」^{※2}は、AIやIoTが最先端技術となった今日においても、時代の変化に柔軟に対応しながら、お客さまの期待に応え、またその期待を超えるような製品やサービスを展開します。ものづくりを通じて3ブランドはさらに進化を続けます。

※2：Victorブランドは日本国内専用ブランドとして日本国内のみで展開しています。

モビリティ&テレマティクスサービス分野

カーナビゲーションやカーオーディオ、スピーカー、アンプ、ドライブレコーダー（通信型含む）、アンテナ、ケーブル、アルコール検知器、除菌消臭装置など、快適かつ安心・安全な車室空間に寄与するソリューションを展開

OEM事業

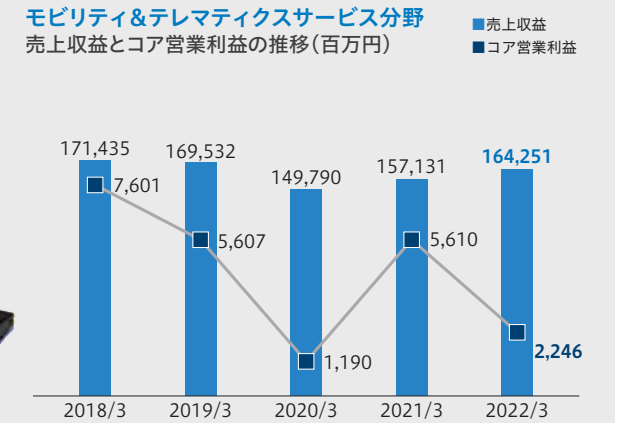
- 用品：自動車メーカー、ディーラー向け
- 純正：自動車メーカー、部品メーカー向け

アフターマーケット事業

- カー量販店、代理店向け

テレマティクスサービス事業

- 損害保険会社、ライドシェアサービス会社、タクシー・運送会社向け



パブリックサービス分野

業務用無線システムやブロードバンド無線ソリューション、セキュリティシステム、業務用放送システム、医用画像表示モニターなどを通じて、人々の命と暮らしを守り、安心・安全な街づくりに寄与するソリューションを展開

無線システム事業

- 警察・消防・救急向け、電気・水道・ガス事業者向け、ホテル、小売業、イベント会社向け

業務用システム事業

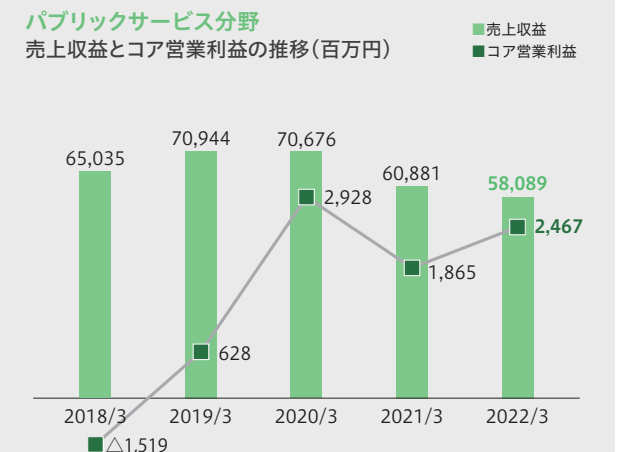
- 株式会社JVCケンウッド・公共産業システム：企業・教育・公共・流通・社会インフラ・アミューズメント施設向け
- ヘルスケア：医療・研究機関向け

<無線システム事業>



国際的に権威のあるデザインアワード「iF DESIGN AWARD 2022」において、パブリックセーフティ市場向け業務用マルチバンド対応デジタル無線機「Viking」シリーズの新商品「VP8000」(写真中央)がプロダクト分野で受賞

<業務用システム事業>



メディアサービス分野

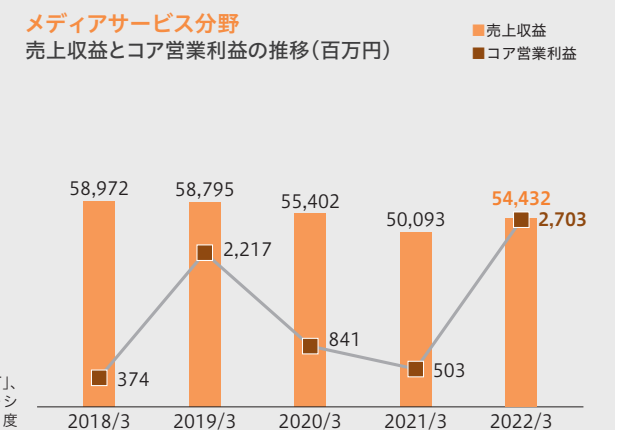
ホームエンタテインメント需要やリモート需要、自然災害やパンデミックに対する意識の高まりに対応したソリューションに加え、数多くの人気アーティストのパッケージ& 配信音源ビジネス、非音源ビジネスを展開

メディア事業

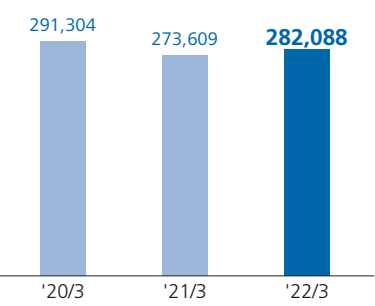
- ソリューション：企業、自治体、放送局、代理店向け
- ライフスタイル：量販店・代理店向け
- 映像デバイス：映像機器メーカー、および光通信システムベンダー向け
- ブランドライセンス：海外大手流通、テレビ・オーディオメーカー向け
- 受託：国内のレコード会社・映画会社・出版社向け

エンタテインメント事業

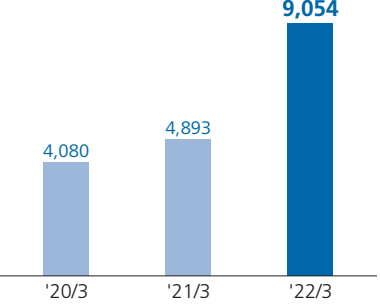
- 国内のCDショップ、ECサイト、音楽配信サイト向け



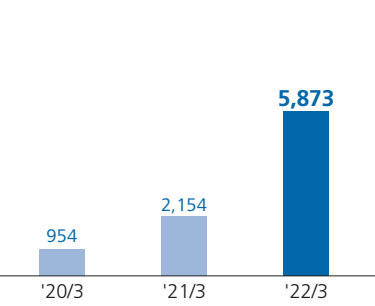
売上収益(百万円)



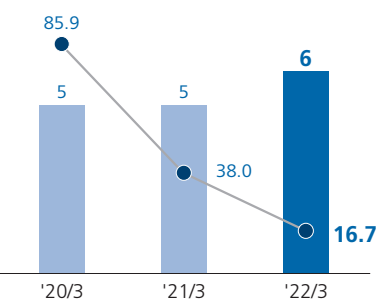
営業利益(百万円)



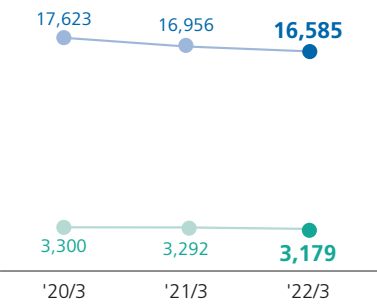
親会社の所有者に帰属する当期利益(百万円)



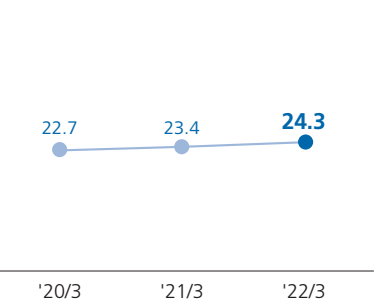
配当金(円)、配当性向(%)



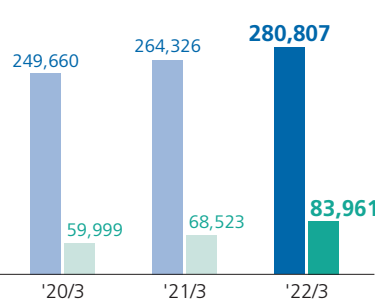
従業員数(連結・単体)(人)



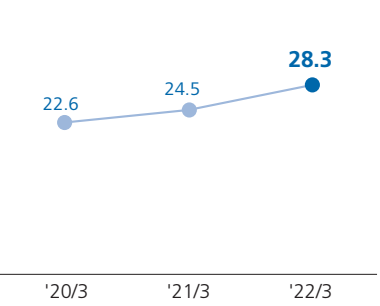
平均勤続年数(単体)(年)



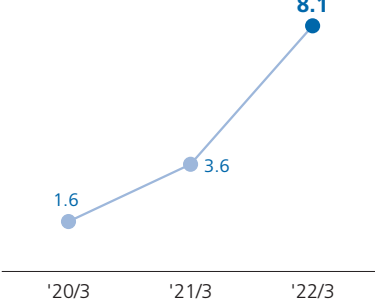
資産合計、資本合計(百万円)



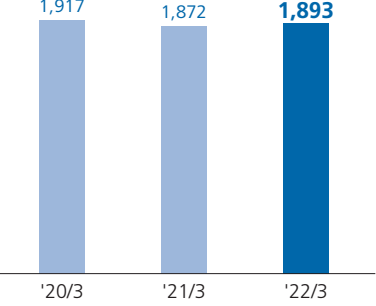
親会社所有者帰属持分比率^{※1}(自己資本比率)(%)



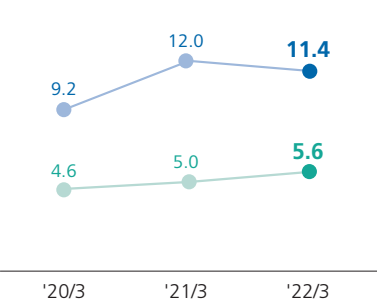
親会社所有者帰属持分当期利益率(ROE)^{※2}(%)



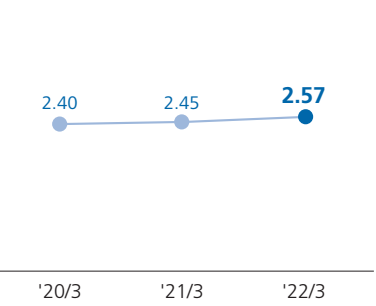
年間総実労働時間(単体)(時間)



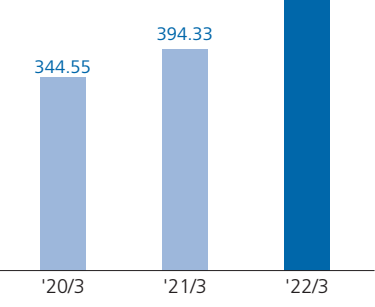
女性幹部職比率(連結・単体)(%)



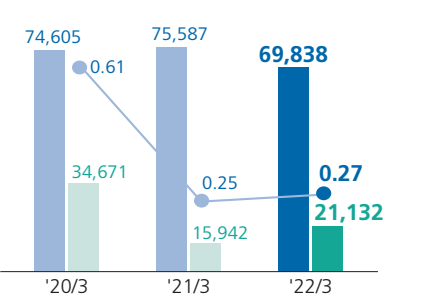
障がい者雇用比率(単体)(%)



1株当たり親会社所有者帰属持分^{※3}(円)



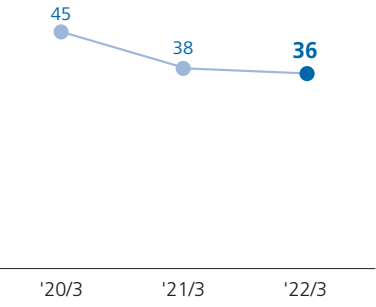
有利子負債^{※4}(百万円)、ネットデット^{※5}(百万円)、ネットD/Eレシオ^{※6}(倍)



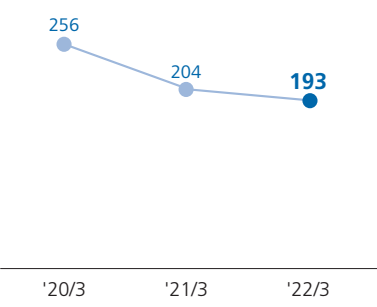
キャッシュ・フロー(百万円)

	2020/3	2021/3	2022/3
営業活動によるキャッシュ・フロー	21,642	35,829	7,059
投資活動によるキャッシュ・フロー	△19,675	△11,804	△9,804
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,665	△5,342	△11,273
フリー・キャッシュ・フロー	1,966	24,024	△2,744

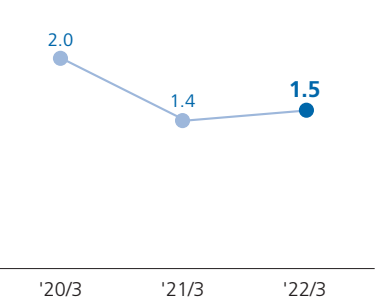
CO₂排出量(Scope1+2)(単体)(千トン)



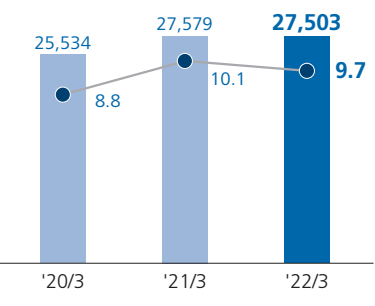
水使用量(単体)(千トン)



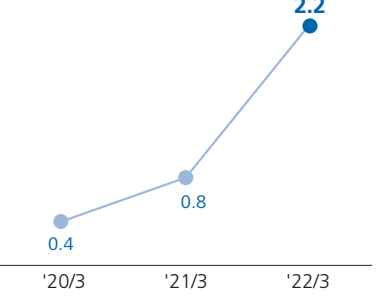
廃棄物発生量(単体)(千トン)



EBITDA^{※7}(百万円)、EBITDAマージン(%)



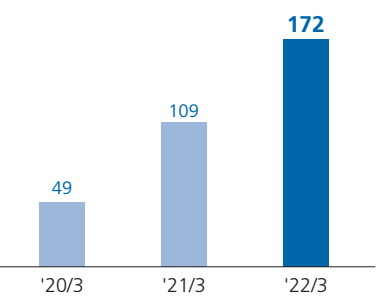
資産合計当期利益率(ROA)^{※8}(%)



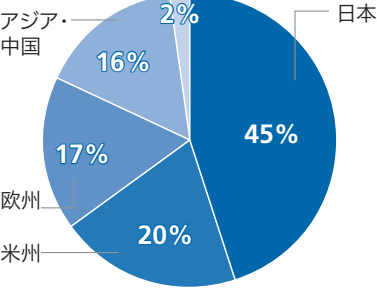
設備投資^{※9}、減価償却費、研究開発費(百万円)

	2020/3	2021/3	2022/3
設備投資 ^{※9}	11,837	10,268	12,354
減価償却費	20,199	19,316	17,120
研究開発費	17,445	15,720	15,871

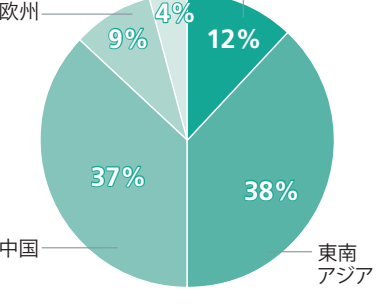
交通事故防止に貢献するテレマティクスサービス
通信型ドライブレコーダー累計販売台数(万台)



地域別売上収益構成比(2022年3月期)



地域別生産比率(2022年3月期)



※1: 親会社の所有者に帰属する持分÷資産合計×100
※2: 親会社の所有者に帰属する当期利益÷期中平均親会社の所有者帰属持分×100
※3: 親会社の所有者に帰属する持分合計÷発行済み株式数
※4: リース負債は含みません
※5: 有利子負債－現金及び現金同等物の期末残高

※6: ネットデット÷株主資本
※7: 税前利益+支払利息+減価償却費+減損損失
※8: 親会社の所有者に帰属する当期利益÷資産合計×100
※9: 有形固定資産のみ